

第64回
沖縄地方交通審議会
船員部会 議事録

平成26年1月24日(金)

沖 縄 総 合 事 務 局

第64回沖縄地方交通審議会船員部会

日 時 平成26年1月24日（金）16時00分

場 所 沖縄総合事務局 1F 「共用会議室」

出席者：

公益委員 春田委員、上江洲委員
労働者委員 姫路委員、大崎委員、辻委員
使用者委員 山城委員、大城委員

議事次第

○開 会

○議 事

1. 第63回船員部会の議事録承認について
2. 管内の雇用状況等について
3. 意見交換

○閉 会

（配付資料）

1. 第63回船員部会の議事録（案）
2. 船員職業紹介実績等一覧表（平成25年12月分）
3. 平成26年度船員部会開催予定表

(議事概要)

事務局（徳田）

時間となりましたので会議を始めさせて頂きます。

本日は、公益委員2名、労働者委員3名、使用者委員2名が出席されており、船員部会運営規則第9条の規定による定足数を満たしており、有効に成立していることをご報告致します。

それでは、配付資料の確認をさせて頂きます。

(資料の確認)

それでは、春田部会長代理、宜しくお願ひ致します。

春田部会長代理

初めに、第63回船員部会の議事録の承認についてお諮り申し上げます。

お手元に配付されております議事録をご確認ください。

(各委員の意見確認)

特にご異議が無いようでしたら、第63回船員部会議事録につきまして、原案のとおり承認してよろしいでしょうか。

(異議なし)

異議なしということで承認されたものと致します。

続きまして、議題2の管内の雇用状況等につきまして、事務局にご説明をお願い申し上げます。

事務局（宮良）

平成25年12月分の管内雇用状況等の概要について報告致します。

●求人状況について

新規求人数は0件でした。

前月は2件で2件減少、また、前年同月は1件でしたので1件減少となっております。

月間有効求人数は8件でした。

前月は9件で1件減少、また、前年同月は7件で1件増加となっております。

月間有効求人数8件の内訳としましては、商船等7件、漁船1件となっております。

月末未済求人数は8件でした。

●求職状況について

新規求職数は2名でした。

前月は3名でしたので1名減少、また、前年同月は8名で6名減少となっております。

新規求職数2名の内訳としましては、商船等2名、漁船0名となっております。

月間有効求職数は12名でした。

前月は17名でしたので5名減少、また、前年同月は22名でしたので10名減少となっております。

月間有効求職数12名の内訳としましては、商船等10名、漁船2名となっております。

月末未済求職数は7名でした。

●成立状況について

12月は管内で2件の採用が決まりました。

成立状況としましては、沿海の砂利運搬船に一機士として62歳男性1名が、また、曳船に機関長として40代男性1名が採用されました。

●求人倍率について

12月の月間有効求人倍率は0.67倍でした。

前月は0.53倍でしたので0.14ポイント増加、また、前年同月は0.32倍でしたので0.35ポイント増加となっております。

●新規求職者の退職理由、又は求職理由別内訳について

12月の新規求職者2名の退職理由としましては、自己都合2名となっております。

新規求職者が所属していた会社所在地につきましては、2名とも管内となっております。

●失業等給付支給内訳について

基本手当の初回受給者は2名でした。

受給者実人員は4名、支給延べ件数は4件で、

基本手当支給金額は、508,312円、、

その他の支給は、ありませんでしたので、

総支給額は、508,312円 でした。

以上でございます。

春田部会長代理

ありがとうございました。

ただ今のご説明につきまして、何か質問等ございますでしょうか。

無いようなので、議題3の意見交換に移りたいと思います。

何かございますか。

大崎委員

資料を3部提出させて頂きました。1つは平成26年1月6日、今年の仕事始めの日に新聞報道等で掲載されたものを持ってきております。もう一つは、これに関連して私ども海員組合の活動方針で示されております「海員不戦の誓い」、その裏面には200

4年に全日本海員組合から声明として出させてもらったものを印刷して持って参りました。本日は有事輸送に関する民間船の扱いについて、意見交換をさせて頂きたいと思います。

この記事を読んでいくと、現在の民間船舶の乗組員を予備自衛官とする方策も検討するということも掲載されており、沖縄の位置付けもあって、非常に私どもの危惧するところです。特定秘密保護法が施行され、これがもし特定秘密となれば表に出てこない可能性もあるので、雇用船員の立場も不安になりますし、今後「有事」が一人歩きしてしまうと非常に危ないと感じます。

現在私どもは、災害支援等の輸送を行っていますが、「災害支援」と「有事」は全く別物という考え方を持っていますので、そこはご理解して頂き一線を引いてもらいたいと思います。これについては、連合沖縄の会長や琉球海運の前会長の比嘉さんもコメントを入れて頂いておりますので、そこも一読して頂きたいと思います。

私どもは、「不戦の誓い」という中で、危ない所には船員を行かせないというスタンスを持っていきたいと思いますので、そのご理解も得ていきたいと思います。宜しくお願いします。

辻委員

もう1つは、県立沖縄水産高等学校の海洋技術科の単科としての存続を求める陳情についての資料です。現在、沖縄水産高等学校は学科の改編ということで、海洋技術科と総合学科という科を水産系と非水産系に編成するという案が出されておりまして、これにつきましては教育委員会の方で議論が行われているところであります。

我々船員を取り巻く環境は、かなり高齢化が進んできて後継者確保が叫ばれているというところです。こういった中、明確に船乗りを目指す海洋技術科船長コース、機関長コースという位置付けが、仮に類型と言われるような水産学科統合になりますと、船長、機関長、船員になるというコースがかなりぼやけてしまって、希望する方が行けなくなるような恐れもありますし、昨年11月25日に、海洋技術科単科としての存続を求め、船員の後継者確保の道を閉ざさないように、というような申し入れを行いました。

お配りした資料は、仲井真沖縄県知事あての陳情でございますが、県議会議長あて、また教育委員会教育長あてに同様の文章を出しております。また、この流れがまだ止まっていないこともありますし、2月にも再度同様の申し入れを行いたいと考えておりますことをご紹介させて頂きます。

春田部会長代理

ありがとうございました。

後者の方はずっと続いている問題の情報提供ということですが、前者の部分は議論が必要ということでしょうか。

大崎委員

沖縄の船員部会の中での認識というか、意見交換をやった方が良いのではないかと考えています。この問題については、沖縄と本土の方とで温度差があります。そこで沖縄の立ち位置ですが、連合沖縄の会長も、船に予備自衛官が乗っているとはいえ、有事のときに船を出すのはどうなのかということがあります。また、その船が着く港も対象になるのではないかという危惧があり、非常に危険なお話のような気がします。私たちも

朝電話が鳴って何だろうと思いましたら、「新聞見たか。」というのが話のとっかかりで、やはり仕事始めの朝一発目の記事で「有事」という言葉が見出しに出ているというのは非常にびくっとする感じがしました。うちの海員は「不戦の誓い」という中で、「船員は危険な所に行かせない。」というスタンスです。それは変わりないので、船社さんと国との協定で、予備自衛官を船員として雇用するという形をとられてしまうと、船員の雇用の関係も危うくなると思います。

春田部会長代理

自衛隊の方は定年が少し早いですよね。それで退職された方を船の会社に雇ってもらうという話も入っているのですか。

大崎委員

はい。

春田部会長代理

そういうことですか。

姫路委員

ですから、そうなると現在の乗組員の雇用の幅がなくなるというのもあります。船社の方からすると仮に協定を結んだとすれば、財産である船を持っていかれるという形になり、うちの組合員さんの職場がなくなるということになります。どちらにしてもやってはいけないことなので、この辺は労使の枠を超えて共通認識を持っておいた方が良いのではないかというふうに考えています。

春田部会長代理

この問題を意識するかどうかは別として、記事が出る以前に、自衛隊をやめられた方を技術があるということで採るようなことはありましたか。

山城委員

自衛隊OBを採用するということですか。

春田部会長代理

はい。今おられている会社ではどうですか。

山城委員

いや、全く無いですね。

春田部会長代理

ということは、結構無理強いされるということですね。

辻委員

他地区であれば定年された自衛官の方を雇用したというケースはあります。私の前職の長崎の方でもこういう意図とは全く別として、自衛隊を退職された方が普通の再雇用

という形で船に乗られているという実績はかなりあります。

山城委員

資料では西日本の記事しか無いようですね。私も本土の新聞も見てみまして、小さいから見逃したかもしれません、他の地区での記事はありましたか。

大崎委員

本土の方は扱いがあまり無いです。これが出来ているのは鹿児島とか長崎、中国、四国地方で若干出ていましたが、日経さんの方は出てなかったような気がします。

山城委員

南西諸島の日経は、隅々まで見ましたが無かったです。

大崎委員

鹿児島の方のフェリーが沖縄に入っていますので、沖縄や鹿児島にピンポイントで出ているかなという気はしました。

山城委員

沖縄航路の船とは書いていませんから、日本全国の船が対象だと思いますが、全国だろうが沖縄船だろうがなんだろうが大いに問題がありますよね。

大崎委員

提出した資料にもあります「高速輸送船ナッチャンWorld」という船を特定された話もありますし、金額の面でも非常に具体的になっています。そういう中で、私たちはそこまで一切知らなかった話で、今後このようなことが特定秘密に入る可能性がゼロでは無いような気がします。特定秘密に入ったとなれば、船社さんと防衛省の協定ができる後に私たちが知るようなことになって、これは大変なことだと思います。そこで、こういう情報があるということは、やはり皆さんに知って頂きたいという気持ちで、今日この部会の場で披露させて頂きました。

春田委員

津軽海峡のフェリーが南西諸島地域を走るということですごいですね。

大崎委員

そうですね。沖縄に入っている米軍の船より一回りぐらい大きい船ですね。

山城委員

たまたまこの船が繋いでいるということですね。

大崎委員

そうです。

山城委員

出す方も都合が良かったという流れもあるでしょうし。

辻委員

この他にも、燃油高の影響もあり運休になったナッチャン Rera という船を自衛隊で使うという話は何回かあったのですが、それはうわさ程度の話しかありませんでした。今回こういう具体的な話が出てきたのは初めてだと思います。

山城委員

私は記事が掲載された翌日に、たまたま乗組員といろんな話し合いをしに行ったのですが、「昨日の新聞を見たか。」と聞いたら、「そういえば変なのが載っていましたね。」という話になりましたけど、そんなに簡単に行くものではないだろうと考えています。まずは戦争をやる立場の人、特に防衛省の戦う方の側は、戦争に勝つために都合のいいようにものを考えるでしょうが、最終的には当然、船社が契約を結ぶか結ばないかということにかかわるし、それ以前に海員組合さん、内航総連合会、あるいは旅客船協会等とのいろんなすり合わせ、話し合いがなければできないだろうと思います。いずれにしてもこのような勝手な話し合いが簡単にいくものではないでしょう、という意見を言ったのですが、新聞の報道もそうですが、肝心の中央の協会の方が案外何も反応が無いのです。私達は彼らが大騒ぎするのかと思っていたのですが。

大崎委員

あまり向こうの方の新聞には報道されていませんし、テレビでも放送していないような気がします。中央でベタ記事で出たかもしれません、やはり沖縄の人はこういう事には敏感です。このように沖縄の新聞で黒枠でドンと出て、しかも「有事」という言葉が出て、話が進んでしまうと非常に危惧するというか、怖いですね。、

私たちは即東京の本部には報告しました。本部の方は、「不戦の誓い」を謳っているので、連合沖縄の方で対応して頂き特段コメントも出しません。ここで一発ポンと記事が出て、次に特定秘密としてそのまま水面下で話しが進む、というのが一番怖いのです。この後報道は無いですから。

今後、自衛隊のレーダー網や沖縄の設備増強等の予算を立てる中で、予備自衛官という言葉が出てきた場合、私たちは予備自衛官と自衛官の違いがわかりません。危険に対する保証がきっちりできるように予備自衛官を乗せるのだということですが、最悪、現乗組員を予備自衛官にすることを検討するとなってしまうと今乗っている船員さんも心配ですよね。今は時期が時期なだけに、こういうことが一人歩きして止まらなくなるのが怖いと感じます。だから問題提起をするのです。

私たちは、他局の船員部会や色々なところで皆で声をあげていかなければいけないという話をしています。九州の管内、福岡もそうですが、そちらの方でも話題をあげるかもしれません。私の上は九州閥門、門司港ですので、福岡で船員部会をやっています。そこでこの話をして頂ければ、また広がるかなと考えています。

この件については、皆さんに知りたい。声の力が無いと進んでしまったら怖い、どこかで止めないといけないと思います。

春田部会長代理

他に何かございますでしょうか。

山城委員

佐藤優さんがよく言っている「沖縄差別」というのがあります。基地の押しつけもそうなのですが、例えばこういうことが中央の全国紙だけではなくて海事の専門誌にもあまり載っていない、知ったとしても「沖縄に引き受けさせたらしいんじやないか。」という「沖縄差別」があるのかと思ったりもしますけどね。

大崎委員

温度差は相当あると思います。本土の人は知らないのです。

山城委員

とにかく温度差があるのは間違いないです。

大崎委員

本当にそうです。

沖縄の旅客船等には、沖縄の船員さんが大勢乗っておられて、マルエーフェリーさんは、鹿児島の船会社なので結構鹿児島の人が乗っていますが、沖縄航路があるので沖縄の感じ方に近いものがあります。だから九州と沖縄でこの記事は出ているのだと思います。

山城委員

なるほど。

大崎委員

本部の方には一応投げて、こういう話題があるという話はしています。本部としては、海員としての考え方というのはずっと伝えているので、それに対するコメントは、さらなるコメントになるのであまりしていません。

これからも皆さんのご協力を仰ぐときもあるかと思いますので、宜しくお願ひしたいということで、今日この記事を出させてもらいました。尚、総合事務局の方でも何らかの情報があれば、私どもにも教えて頂きたいということで宜しくお願ひします。

春田部会長代理

ありがとうございました。

その他に何かございますでしょうか。

無いようでしたら、事務局から連絡がありますのでお願ひ申し上げます。

事務局（徳田）

資料として来年度の船員部会開会予定表をお配りしております。ご確認頂いて、都合の悪い日等がございましたら事前にご連絡下さい。基本的に4週目の金曜日に設定しております。

「就業体験」の最終報告につきましては、今回の部会でお話しする予定でしたが、2月の部会にてご報告させて頂きたいと思います。また、小学生を対象とした「海事教室」が明日開催される予定となっております。その方も合わせて報告する予定です。宜しく

お願い致します。

最後に次回の船員部会についてお知らせ致します。2月の部会は2月21日金曜日、今回と同じこちらの1階共用会議室で2時より開催致します。宜しくお願ひ致します。
以上です。

春田部会長代理

それでは、本日の部会はこれで終了致します。お疲れさまでした。